

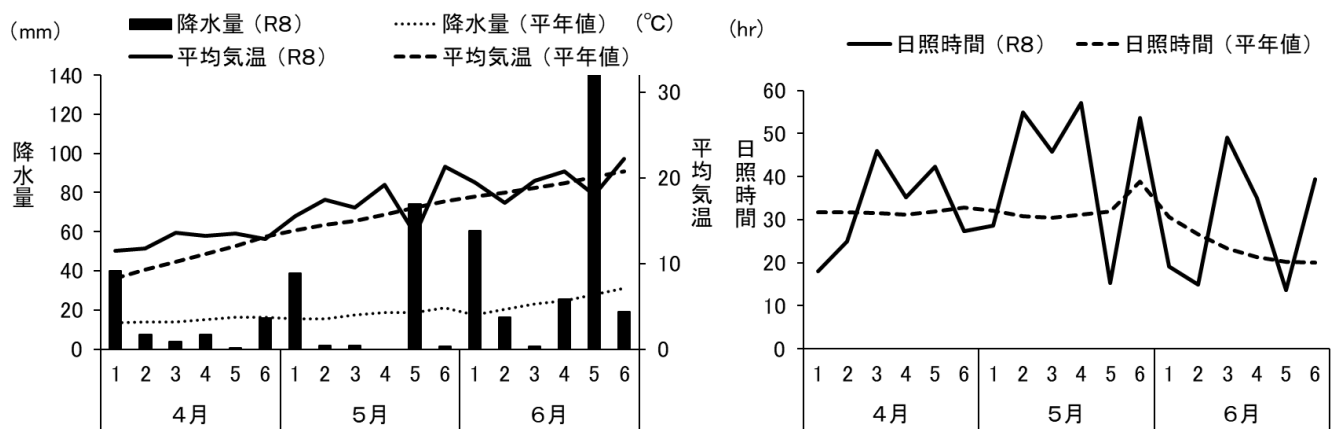
仙台稲作情報 2026 (第4号)

宮城県仙台農業改良普及センター TEL : 022-275-8410 FAX : 022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail : sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

○栽培管理のポイント

- ▷中干しは幼穂形成期前までに終わらせましょう。
- ▷追肥は葉色や生育ステージを確認して実施しましょう。
- ▷病害虫防除は適期を逃さず計画的に実施しましょう。

1 気象経過 (仙台 令和8年4月第1半旬～6月第6半旬)



- ・6月の平均気温はおおむね平年並みで推移しました。
- ・東部南部は6月20日頃に梅雨入りし、21日は大雨となるなど、6月の降水量は平年よりかなり多くなりました。
- ・6月の日照時間は、中旬を中心に高気圧に覆われて晴れる日が多かったことから、平年よりやや多くなりました。

2 管内調査ほの生育状況

(1) 移植栽培

管内の移植栽培の草丈は、仙台湾沿岸のひとめぼれ、ササニシキはほぼ平年並み、北部平坦のひとめぼれは平年より低くなっています。茎数はひとめぼれ、ササニシキともに平年よりも少なくなっており、特に仙台湾沿岸のひとめぼれで少なくなっています。葉色は概ね、この時期の目安の値（40前後）となっています。（表1）

なお、7月1日現在の生育調査ほでは、1mm以上の幼穂は確認されず、幼穂形成期には到達していませんでした。（幼穂形成期：幼穂長が1mm以上の長さになった時。出穂期の20～25日前頃）

古川農業試験場の5月11日移植ひとめぼれでは、葉数は平年より少なく、生育ステージは4～5日程度遅れています。（表2）

◆宮城県農政部みやぎ米推進課ホームページで県内の水稻生育状況等を掲載しています。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/komezukuri.html>

表1 移植栽培における7月1日の調査結果

品種	地帯区分	調査地点		田植日	栽植密度 (株/㎡)	7/1調査		
						草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市 宮城野区	本 年	5/16	13.5	47.8	237	42.4
			前年(比・差)	5/23	15.8	84%	63%	3.5
			平年(比・差)	5/18	14.7	93%	62%	+1.8
	北部平坦	大郷町	本 年	5/24	15.3	44.0	476	44.5
			前年(比・差)	5/18	15.0	74%	85%	+7.1
			平年(比・差)	5/13	16.1	79%	81%	+5.4
ササニシキ	仙台湾沿岸	仙台市 若林区	本 年	5/13	13.5	50.3	442	40.6
			前年(比・差)	5/18	14.7	84%	92%	+3.9
			平年(比・差)	5/13	13.8	94%	83%	-0.2
にじのきらめき	北部平坦	大郷町	本 年	5/15	19.0	53.5	661	44.0
			前年(比・差)	5/22	18.9	97%	133%	+6.8

※平年値は、直近5か年の平均値。にじのきらめきは、昨年から調査しているため平年値なし。

表2 古川農業試験場 生育調査結果（北部平坦 5月11日移植ひとめぼれ）

草丈(cm)			茎数 (本/㎡)			葉色(GM)			葉数		
本 年	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年	前年差	平年差	本 年	前年差	平年差
49.5	84	91	701.2	118	106	44.4	+3.7	+3.0	9.1	-0.7	-0.6

※平年値は、直近5か年の平均値。

(2) 乾田直播栽培

仙台湾沿岸のひとめぼれ乾田直播ほ場では、茎数は多く、葉色はやや低くなっています。（表3）

表3 乾田直播栽培における7月1日の調査結果

品種	地帯区分	調査地点	播種日	苗立数 (株/㎡)	7/1調査		
					草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)
ひとめぼれ	仙台湾沿岸	仙台市 若林区	4/10	210	53.3	672	36.1

※今年度から調査をしているため、前年値・平年値なし。

3 本田管理

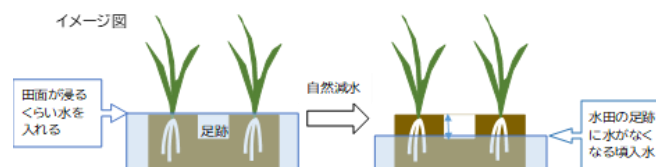
(1) 水管理

- ・高温により水温が上昇すると分けつが旺盛になることが予想されます。有効茎数を確保したら、早めに中干ししてください。
- ・中干しは遅くとも幼穂形成期前に終了し、終了直後は走り水程度として徐々に間断かんがいに移行しましょう。
- ・根腐れや倒伏の危険性が高いほ場では、有効茎確保から出穂期まで**飽水管理**とすることで、土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持できます。

※飽水管理とは、水田の足跡に水が無くなったなら入水し、表土が十分湿ったら落水する水管理です。

○飽水管理の方法

- 1 水尻を閉め、畦畔から漏水がないか確認する。
- 2 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- 3 水を止めたなら水尻を閉めたまま自然落水する。
- 4 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。（目安は3～5日おき）



- ・幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温 20℃以下の低温が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合は障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、できるかぎり深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期：幼穂長が 1 mm 以上に達した時 減数分裂期：幼穂長が 30～120mm に達した時

(2) 追肥

- ・葉色は今後低下することが予想されます。**穂揃期に葉色が低下していると、高温による品質低下の影響を受けやすくなります。**ほ場をよく観察し、適切な追肥を行い葉色維持に努めましょう。
- ・追肥時期の葉色、品種ごとの時期及び施用量については表 4、表 5 を参考にしてください。
- ・**5 月上旬に移植したほ場では、既に幼穂形成期に入っている可能性もあります。ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。**
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、倒伏が懸念されるため原則として追肥は行いません。しかし、**高温下では窒素肥効の消耗が激しく、緩効性肥料を施用した場合でも幼穂形成期頃から葉色が低下するほ場がみられるため、葉色が著しく低下している場合は追肥を検討しましょう。**
- ・「だて正夢」は、他品種に比べ茎数が少なく葉色が濃く推移します。幼穂形成期に目安の茎数（390～460 本/m²）が確保できている場合は、減数分裂期の追肥を基本として実施しましょう。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移しますので、急な葉色の低下に注意し、登熟向上のために表 4 の目安で 2 回の追肥を基本として実施しましょう。
- ・「にじのきらめき」の出穂 30～25 日前（減数分裂期頃）における葉色の目安は SPAD 値で 40、カラススケール値で 4.8 で、穂肥の窒素施用量の目安は 2～3kg/10a とされています（農研機構中央農業研究センター北陸研究拠点資料より）。

表 4 生育ステージにおける葉色の目安

（上段：SPAD 値、下段：カラススケール値）

品種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	38 ～ 40	35 ～ 37
	4.4 ～ 4.8	4.0 ～ 4.3
ササニシキ	34 ～ 36	32 ～ 34
	3.8 ～ 4.1	3.5 ～ 3.8
つや姫	35 ～ 37	31 ～ 33
	4.0 ～ 4.3	3.3 ～ 3.6
まなむすめ	35 ～ 37	36 ～ 38
	4.0 ～ 4.3	4.1 ～ 4.4
だて正夢	40 ～ 42	37 ～ 39
	4.8 ～ 5.1	4.3 ～ 4.6
金のいぶき	33 ～ 35	30 ～ 32
	3.6 ～ 4.0	3.2 ～ 3.5

表 5 穂肥の標準的な窒素施用量の目安（成分量/10a）

品 種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	-	1.0～1.5kg
まなむすめ つや姫	2.0kg	-
だて正夢	- （茎数が少ない場合は 1.0kg）	2.0kg （幼穂形成期に 1.0kg 追肥した場合は 1.0kg）

(3) 病虫害防除

イ いもち病

- ・病虫害防除所の発生予察情報（6 月 24 日発行）では、葉いもちの発生量は「平年並」と予報されています。
- ・箱施用剤を使用していない場合は水面施用剤による予防防除を実施しましょう。
- ・**7 月中旬から箱施用剤の効果は低下し始めるとともに、葉いもちの感染好適条件が出現しやすい時期となります。**ほ場を見回り、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・追肥後一時的に稲体窒素濃度が高くなると、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので、発生に注意してください。

- ・BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下の病害虫防除所ホームページを参照してください。 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

□ 紋枯病

- ・近年、高温の影響で発生が目立つ病害です。 **前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがありますので、穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤で防除しましょう。**
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。

ハ 斑点米カメムシ類

- ・イヌホタルイ、ノビエ等の水田雑草は、斑点米カメムシ類の水田への侵入を助長するので、7月上旬までに中後期除草剤を用いて除草を行いましょう。 **6月下旬時点で、イヌホタルイが水田内に残っている場合、落等する確率が高くなるため、1回目の斑点米カメムシ類への薬剤散布の時期を「出穂始期～穂揃期」に早めると効果的です。**
- ・生息地である水田周辺のイネ科雑草を刈り取ることで、周辺環境の斑点米カメムシ類の密度を抑え、斑点米被害粒率を抑制できます。幼虫主体の時期である7月中旬までに刈り取りしましょう。
- ・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行いましょう。

二 乾田直播の病害虫対策

基本的には移植栽培と同じ管理となりますが、以下の病虫害の発生に注意しましょう。

(イ) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。
ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

(ロ) イネツトムシ

通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

東北地方の向こう1か月の天候の見通し（7/4～8/3）

7/2 仙台管区气象台発表より抜粋

予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

向こう1か月の天候

- ・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

8月31日まで令和8年度宮城県農薬危害防止運動実施中！

7月から9月は夏の熱中症等声かけ期間です！！

キャッチフレーズは「いのちをうばう、夏のひとり作業」

農業は1人作業が多く、熱中症になった際に自分では症状を自覚しにくいことから、熱中症が重篤化しやすい傾向にあります。また、高温の日は疲れ等により、高所から転落する等の事故が起きやすいので注意が必要です。